資料２

2020/05/20

2050 年の兵庫県の地域経済（産業）と政策を展望する

加藤恵正

０．日本社会：新たな制度・仕組みになぜ拒否的なのか？　現状維持バイアス？

「社会イノベーション」の遅れが地域発展を阻害

１．産業だけを取り出して議論することに限界。

➔　地域の社会・文化的資源と産業をパッケージにした「イノベーション産業」、これらを駆動する仕組み RIS の醸成・構築に向けた地域経済政策へ。

・「30 年後はどのような産業が地域を支えるのか」を決めるのは市場の動きと政策。特に「既存産業」の行方は、経営者の力量を含め社会経済・技術環境と連動している。その意味で、公共（計画サイド）が手を出す余地は少ない。

・政策は地域の「連続的」イノベーション（高度な技術イノベーションだけを意味しているのではなく、新しいアイデアやサービス・製品を生み出していること）のメカニズムを構築・刺激することに全力を注ぐべきだ。こうした産業を、「イノベーション産業」(E.Moretti2013) と定義。パッケージ化された地域のなかの連関関係を「RIS: Regional Innovation System」とする。かかる仕組みづくりが地域経済の頑健さ・柔軟性・成長の源泉となる。（一般に、こうしたイノベーションは「起業」と連動していると思われるが、日本の起業環境は世界で 100 位レベル（World Bank ,*Doing Business* ）。あるいは、異なるビジネス文化との接点として外資系企業の立地を位置づけると、対内直接投資の対 GDP 比は 5.6%と一時より改善するも世界的にみるときわめて低水準。英国、カナダなどは約 50%）日本の産業政策は既存産業に集中しており（したがって縦割り）、教育などを絡めたイノベーション喚起のためのパッケージ政策とはなっていない。

２．地域経済の政策的視点：イノベーション産業、RIS を地域経済で醸成・構築するために

①　**融合の加速**：関連産業・組織群（related variety）の有機的連関の絶えざる編成
　　地域の人的資源、社会・文化資源との連動 。**政策のパッケージ化を！**

②　**変化への対応**：技術イノベーションの加速度的変化（IoT など）＞　社会イノベーション（制度・仕組み）、既得権擁護型制度を終焉させよ。現状維持バイアスの解消。
　　「負のロックイン」の解消を！

③　**異なる空間の構築（①、②）より**：地域経済を構成する「地域の経済集積」「資金」「人材（知識・情報）」という 3 要素の関係性は多様（RIS）。こうした RIS をマネジメントするのが政策。その際、自治体単位での視点ではなく、経済的に一体化した圏域を想定する必要（広域圏政策）。➔　**広域圏ごとに異なる RIS の形成**

３．Footloose 型ビジネスへの視点

上記、RIS の形成が企業・産業の誘因となる。

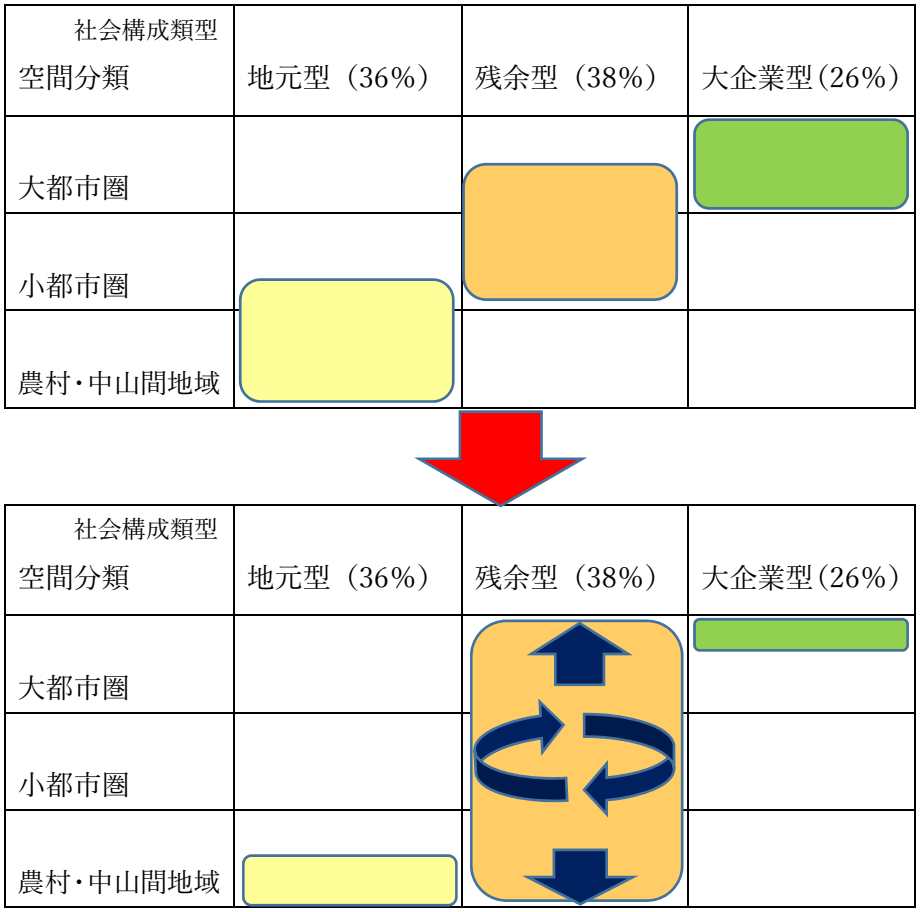
たとえば、「厚みのある労働市場」「ビジネスのエコシステム」「知識の伝播をもたらすクラスター」は先端ビジネス企業立地の大きな誘因（E.Moretti2013）。

４．2050 年の地域経済のイメージ

① ラーニング・リージョンの形成へ（K.Arrow, J.E.Stiglitz）

② 共有型経済と限界費用ゼロ社会？！（J.Rifkin）

社会構成類型と空間



社会構成類型（小熊英二 2019）

AI 等の進化により「残余型」は大きく変化　→　所得の低下

「残余型」の人々への政策注入

・連続したスペシャリスト

・情熱を傾けられる経験

・「協力」によるイノベーション